

## 『日常の中の「異」に気づく：流動的でダイナミックな「違い」を可視化しよう！』

今回のサタラボでは、『異文化コミュニケーション・トレーニング：「異」と共に成長する』（三修社）の著者、東海大学文学部英語文化コミュニケーション学科教授の山本志都さんにご登壇いただきます。前回のサタラボで皆さんにご協力いただいたアンケートをもとに、本書に収録された数多くのエクササイズの中から2つ選び、それらを通して、私たちの日常にある「異」に目を向けていきます。

違いに関心を持たない人に、「なぜ異文化理解が必要なのか」をどう伝えていますか？

「異文化理解＝外国人理解」と思い込んでいる学習者に、違いはもっと身近なところにあるのだと、どう気づきを促していますか。

こうした問いに向き合い続けている教育者の方に向けて、本ワークショップは企画されました。

このアプローチの出発点にあるのが、「小さな線引き(micro-otherness)」という考え方です。

「異」とは、国や文化など大きな枠組みだけにあるのではなく、朝型か夜型か、インドア派かアウトドア派か、病気や入院の経験があるかないか、旅行のとき事前に計画を立てるか成り行きに任せるか、そうした日常のやりとりの中で、ふと立ち現れる違いです。

私たちはそのたびに無意識に線を引き、関係のとり方を調整しようとしています。そうした違いへの反応は、文化的な違いへの対応とも構造を同じくします。

異文化理解とは、遠く離れた「他者」を知ることではなく、まずこの身近な「線引き」に気づき、そのあり方を見直すところから始まるのです。

このワークショップでは、『異文化コミュニケーション・トレーニング：「異」と共に成長する』（山本志都ほか、三修社、2022）に収録されたエクササイズを体験し、違いへの気づきをどう設計するかを、教育の視点から考えます。

学習者の中にある違和感や問いの種に気づき、それを言葉にするための場づくりとは何か。

本ワークショップでは、教育者自身がその手がかりを掴み直すことを目指します。

### 【講師・山本志都さんからのことば】

学習者にどんな「違い」を見せ、どう考えさせるか。それを設計するのが、異文化コミュニケーション教育の仕事です。日常の小さな違いに目を向けながら、自分の見方や感じ方を見直すワークと一緒に体験してみませんか。

目からウロコがぼろぼろはがれる時間になるといいなと、楽しみにしています。

日 時：2025年6月15日(日)9:00-12:00 開場8:45 懇親会：12:15-14:00(希望者のみ参加)

Zoom開催 ※URLはお申込み受付完了後にお知らせいたします。

対象者：日本語教師・日本語ボランティア教師・日本語教育関係者、他(定員：先着40名)

申込フォーム：右のQRコード、下のリンクよりフォームにアクセスできます。

<https://forms.gle/NxppXtWoYV8Fxz4XA>

上記お申し込みフォーム受信後、自動返信メールにて振込先をお知らせします。

参加費のお振込後、正式にお申込み受付完了となります。



※上記フォームご送信後に振込先の連絡が届かなかった場合、以下の事務局メールアドレスまで、直接ご連絡いただきますようお願いいたします。

参加費：3,000円（キャンセルの場合ご返金はできません） 懇親会費：無料(飲食はご自由に)

主 催：サタラボ【代表】小山暁子

お問い合わせ：[satalabo1@gmail.com](mailto:satalabo1@gmail.com) 事務局：伊藤・森谷・渡辺